

鶴岡市議会議員〔無党派・総務常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2013
MAY



＜連絡先＞ 事務所 〒 997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒 997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2 階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

平成 25 年度 3 月定例会を振り返ります。
なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

平成 25 年 3 月定例会の一般質問では、子どもの読書推進と森林文化都市構想について問いました。

1. 「読書のまち」について

■議員 子ども読書活動推進計画の策定スケジュールは。学校司書への研修を充実するべきでは。

■教育長 市立図書館の創立 100 周年にあたる 27 年度をめどに計画をまとめる予定である。学校司書研修は、図書館支援業務員の派遣による個別指導が中心となり、小規模校の給食図書パートについては、新任者や経験の浅い職員の研修も検討していく。

「子ども読書活動推進計画」 2015 年策定！？

鶴岡市の《子ども読書活動推進計画》、ついに策定に動き出すか！

この 3 月定例会での僕の一般質問への答弁によれば、「2015 年の鶴岡市立図書館 100 周年を目途に策定したい」（教育長）と。せっかくなら 2014 年度中に策定し、記念すべき 100 周年にはグングン推進していきたいところですよ！

ちなみに、一般質問の中で触れた島根県の子ども読書活動推進計画は、理論と実践のバランスが◎！

(※)

H25 年 3 月定例会・一般質問

◆テーマ

1. 「読書のまち」について
 - 1 子ども読書活動推進計画の策定について
 - 2 学校司書の人材育成と活用について
2. 森林文化都市について
 - 1 地域エネルギービジョンとエネルギーシフトについて
 - 2 森と里と海の連環について

(※) 子ども読書活動推進計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」で全市町村に策定が義務づけられています。しかし、昨年 3/31 時点の山形県内 35 市町村での策定率はわずか 11.4% で、全国最下位。

山形県としては、平成 18 年 2 月に第一次を策定。その後、国の「新学習指導要領」や県の第 5 次教育振興計画の中で読書活動が重要視されていることも考慮して、平成 23 年 12 月に第 2 次を策定しました。

鶴岡市教育委員会としては、25 年度に市役所内部の関係各課と連携して計画策定への準備を本格化し、市内各方面への「読書アンケート」を実施すること。何はともあれ、現状での強み／弱みや課題を的確に把握するのが重要ですね！

【目次】

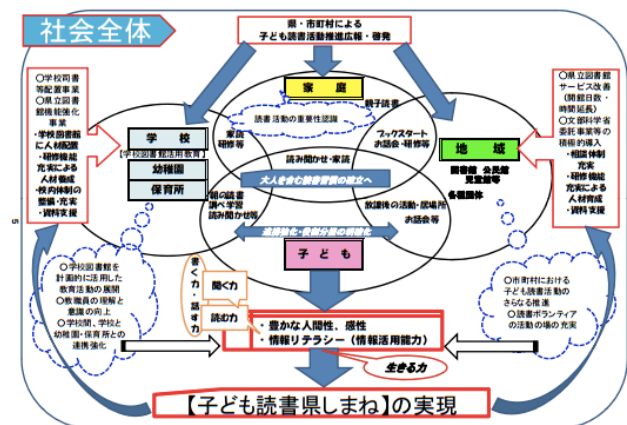
- ・ 3 月定例会・一般質問報告
 - 子どもたちの読書を支える環境づくり
 - 森林文化都市と再生可能エネルギー
- ・ 視察報告：佐賀県佐賀市
- ・ 数世代後の子ども達に、
どんな鶴岡を渡したいのか？

子どもたちの読書を支える環境づくり

(1頁より)

教育長の答弁では、「保育園・幼稚園・学校・家庭・地域など様々な現場の声を聞き、課題解決につながる具体的な内容を盛り込んで策定したい」と。確かに、机上の空論では意味がない。乳幼児から中高生まで幅広く対象としている計画だけに、それぞれの現場をよく知る方々に策定委員を委嘱し、実効性のある計画策定を目指してほしいものです。

↓ 第二次「島根県子ども読書活動推進計画」



「学校司書」の人材育成と活用は？

人がいない図書館は、ただ本棚が羅列してあるだけの倉庫。学校図書館が生き生きと機能するかどうかは「学校司書」さんにかかっています。しかし今の鶴岡市ではフルタイムの学校司書だけでなく、「給食図書パート」と呼ばれる、給食業務の合間のわずかな時間だけ図書館の仕事をする職員が配置されている学校も多いのが現状。



↑先日、視察に伺った島根県・松江市立揖屋小学校の図書館での授業風景。県をあげて小・中学校の学校図書館の整備・活用に取り組んでおられます。素晴らしい！

↓ 山形県子ども読書活動推進計画 (第2次)

全国屈指の充実を誇る、鶴岡市の小学校での学校図書館教育。しかし、感性豊かな中高生の時期の読書は？ 乳幼児期の絵本を通じた親子のふれあいは？ 「読書」とは、単なるヒマつぶしや娯楽ではない。全ての子ども達に情報リテラシーとしなやかな知性を身に付けさせるための土台として、赤ちゃんから中高生まで総合的に支えていく《子ども読書活動推進計画》が必須です！！

人材育成について

学校図書館での勤務は基本的に一人きりの職場なので、学校司書さんが集まっての教え合い・学び合いによる研修が有効です。「新規の雇用者が増えることを踏まえ、新任者や経験の浅い職員を対象とした研修を検討していく」との教育長答弁。これまでに比べれば一歩前進です！しかし「図書館支援業務員が、各校のニーズに合わせて個別指導できている」という発言は、実態と合っていないなら詭弁です。

人材活用について

鶴岡市の現在のルールでは、学校司書はフルタイムで10年、給食図書パートで7年で雇用終了。何と勿体ない！どんな職場でも、10年間ほどの経験を積んで一人前になり、中堅として後輩の指導にも力を発揮していくものではないでしょうか。学校図書館の運営についても、子ども達との付き合い方や指導法、教諭たちとの連携など、熟練がモノを言う部分が多いでしょう。しかし今回の答弁では、雇用期間に関するルール変更の予定はない、と。残念です。



(2頁より)

全国の図書館関係者は、朝陽一小をはじめとする鶴岡市の学校図書館を視察に来ることを《朝陽詣で》と呼んでいるそうとのこと！鶴岡市の学校図書館は「読書センター」としてだけでなく、「学習・情報センター」としての活用が全国のお手本になっています。まさに鶴岡の宝！

この宝物を守り続けるとともに、どんな小規模校の子ども達も学校図書館を通じて充実した情報リテラシー教育を受けられるよう、図書館職員の配置を改善していきたいものです。

2. 森林文化都市について

森林文化都市と再生可能エネルギー、 そして森里海連環

鶴岡市では市政の柱のひとつに《森林文化都市》を掲げています。今回の一般質問では、現在策定中の「鶴岡市地域エネルギービジョン」について《森林文化都市》構想の観点から見た方向性を問いました。特に、全国有数の賦存量を誇る本市の再生可能エネルギーをどう活用していくのかは大きな課題です。

→ 企画部長「森林保全や林業振興、発電や熱源として木質バイオマスを活用する観点などをビジョンに盛り込む予定としている。市の施設整備にあたっては、各施設の状態を勘案しながら木質バイオマスの導入を進めていく。ビジョン推進のためには市民、企業、高等教育機関、各種団体、行政等の連携が重要と考える。」

平成 28 年、山形県で「豊かな海づくり大会」が開催されます。全国植樹祭、国民体育大会と並ぶ「皇室三大行事」で、天皇皇后両陛下が来県のご予定です。「森は海の恋人」「森里海連環」という言葉があるように、豊かな海づくりを考える上で、森と里との関係は不可欠な視点です。森林文化都市として、「豊かな海づくり大会」を見据えた、森と里と海の関係強化策を問いました。

→ 農林水産部長「森と川と海のつながりを考える事業として、油戸地区、堅苔沢地区で『魚の森づくり事業』を実施している。」

視察報告 ～佐賀県・佐賀市

■日時：2013年4月23日

■テーマ：自治基本条例制定に向けた取組みについて

■説明者：佐賀市企画調整部総合政策課



総務常任委員会で行った九州視察の中から、佐賀市の「自治基本条例」の取組みを報告します。

○制定への経緯

2005年、1市・3町・1村が新設合併して新・佐賀市が誕生。2007年には更に3町を編入。

2009年度に議会基本条例を策定。2010年度から毎年、市内16ヶ所で議会報告会を開催している。自治基本条例については、2011年から1年半検討してきた。

○制定の目的

- ・市町村合併により急激に拡大した新しい「佐賀市」として、まちづくりの基本ルールを定め、市民の一体性を高めていきたい！
- ・自治会加入率が87%。地域や隣近所の繋がりを佐賀市の強みとして生かしたい！

○制定プロセス

- ・2012年2月、18歳～80歳という幅広い構成の市民35人から成る「佐賀市自治基本条例検討会議」を設立。
- ・「検討会議」全体会は、ワークショップ形式で開催。一方、市議会にも「自治基本条例調査特別委員会」を設置し、先進地の視察などを行なった。
- ・2013年4月、「検討会議」から市長に条例素案を提言。

○制定後の検証・見直し

- ・「条例検証委員会」を設置し、市長からの諮問に基づいて見直しに関する事項などを審議する。
- ・市長や議員の任期を考慮し、4年を超えない期間ごとに検証・見直しを行なう。社会情勢の変化を勘案し、この条例の規定について検証を加え、その結果に基づいて必要な措置を講じる。

○住民投票

その必要性から議論した結果、「常設型」ではなく、案件に応じて投票資格・方法などを定める「設置型」として盛り込んだ。

○市民への周知

- ・シンポジウムを開催し、録画をケーブルテレビで放映。
- ・毎年実施する「市民意向調査」に、自治基本条例についてのアンケートも盛り込む。
- ・478名の市民インターネット市政モニターからもアンケートをとる。

○推進への方策

- ・市報でのPRに加えて、啓発用DVDやパンフレットを製作。
- ・小学校区での市民説明会のほか、各種団体の会合に出前説明会を行なう。
- ・「検討会議」委員から5名が世話人に立候補。市民主体でのPRも行なっていく。

○まとめ

説明担当者の「この条例は育てていくもの。推進されているか、しっかり検証していきたい」との言葉が心に残った。行政のあらゆる施策は、住民からの評価も受けながら、検証を繰り返す中で成長していくべきです。

佐賀市が毎年実施している「市民意向調査」では、5000人にアンケートを発送し、約30% = 1500人程度から回答を得ているとのこと。鶴岡市でも総合計画の達成度や、各施策の満足度をチェックしていくための、市民による評価の仕組みが必要だと感じました。(了)



コラム

数世代後の子ども達に、 どんな鶴岡を 渡したいのか？

2012年10月6日～8日、鶴岡市の山王商店街と鶴岡まちなかキネマを主会場に【鶴岡・食の国際映画祭&食のフェスタ】開催。多様な魅力を持つ5本の映画が各3回上映され、充実した内容でした。

映画《モンサントの不自然な食べもの》



拡大を求める人間の欲望は果てしない。しかも、原発産業や多国籍企業など、個人を超えたシステムの欲望となると、ちょっとやそつとでは阻止できない。震災以降、僕らが問いかけているのも、原発と同様に止めようとしても止められない、個人や地域を無視した「グローバリゼーション」の害悪ではないか。

上映後には、アフタートークとして映画『よみがえりのレシピ』の渡辺智史監督が登場。監督ならではの視点で、多国籍企業の脅威とTPP問題の現状、地元の在来作物の危機などについて解説してくださいました。

鶴岡特産「ダダチャ豆」など、多くの在来作物が継承されてきた山形県。この宝物を守っていくためには、農家の努力とそれを支える消費者の意識啓発が欠かせない。そして、自分たちの地域は自分たちで誇りを持って守っていく気概がなければ、鶴岡の未来もないことを痛感しました。

映画《幸せの経済学》



数年後ではなく数世代あとを見据えて、子ども達に持続可能な世界を渡していくための広範な視点が、コンパクトにまとめられた佳作。小学校高学年なら、少し説明してあげれば充分理解できると思います。キーワードは「ローカリゼーション」。ヒマラヤの辺境・ラダック地方がシンボルとして提示されます。

自動車産業を失い、荒廃したデトロイトの姿。それは、ルネサスの雇用動向に翻弄される今の鶴岡と重なりました。大企業依存を脱却し、地元の中小企業や農家などを強くするための政策がもっとも必要。

山形新聞に少数民族ラダック人と結婚し、現地で民宿を営む日本人女性の記事。冷蔵庫も上下水道もない、自給自足に近い生活を送りつつ、宿泊予約やメールはスマホで対応。「原始時代の暮らしをしたいわけじゃない。大事なのは素朴さと便利さのバランス」「古いものを捨て便利さだけを追求する考え方から踏みとどまりたい」と。なんとも自然体、しかも明確です。

貴重な在来作物と多様な森を守り、再生可能エネルギーへのシフトを進め、自らの地域への誇りと人々の繋がりが暮らしを豊かにする、そんな鶴岡にしていきたい。数世代後の子ども達のために。

ブログ ツイッター フェイスブック
 BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！
<http://tanaka-tsuruoka.net/>
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>